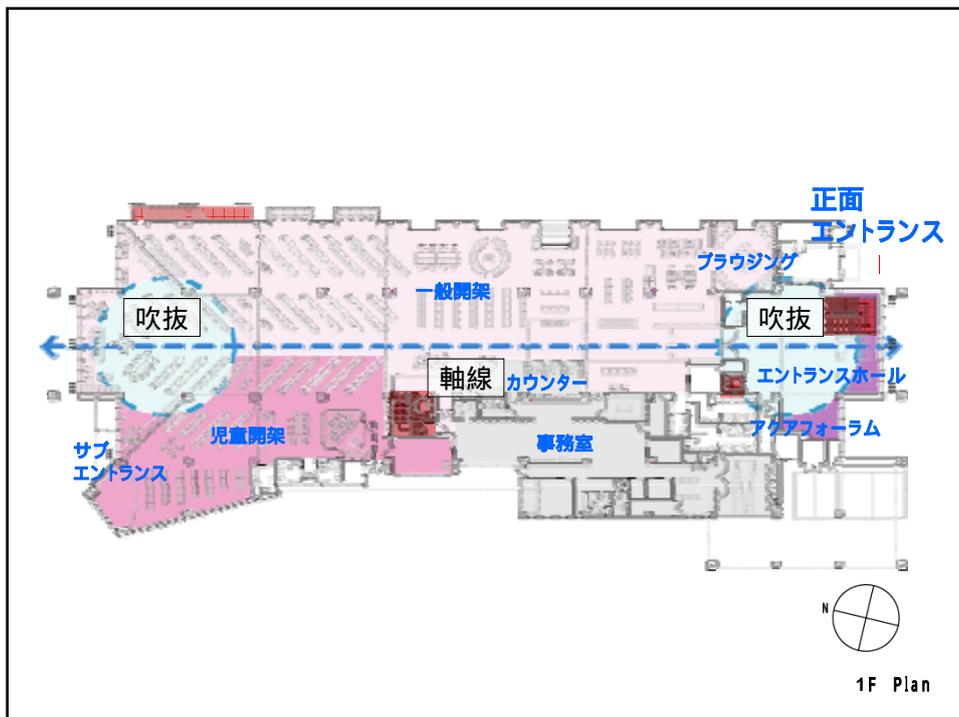
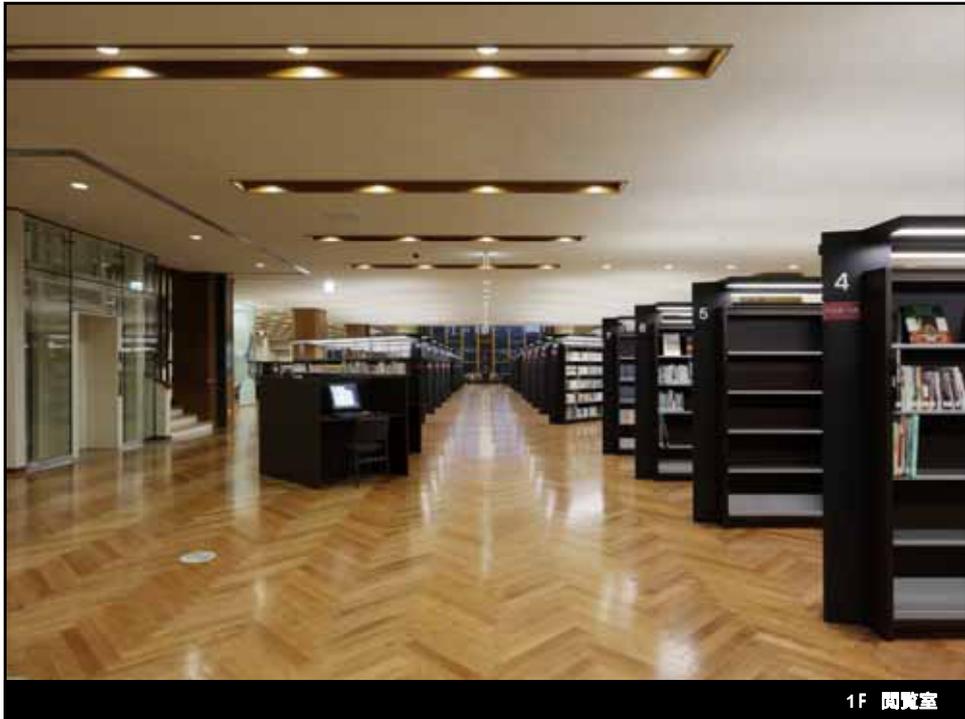
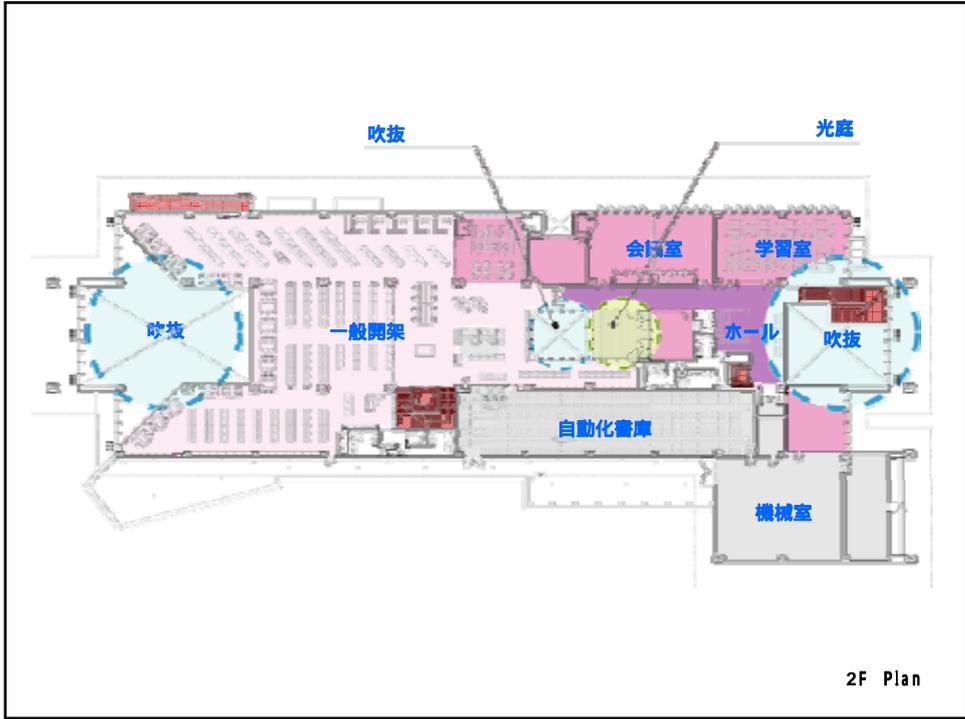


< 先進事例の紹介 >

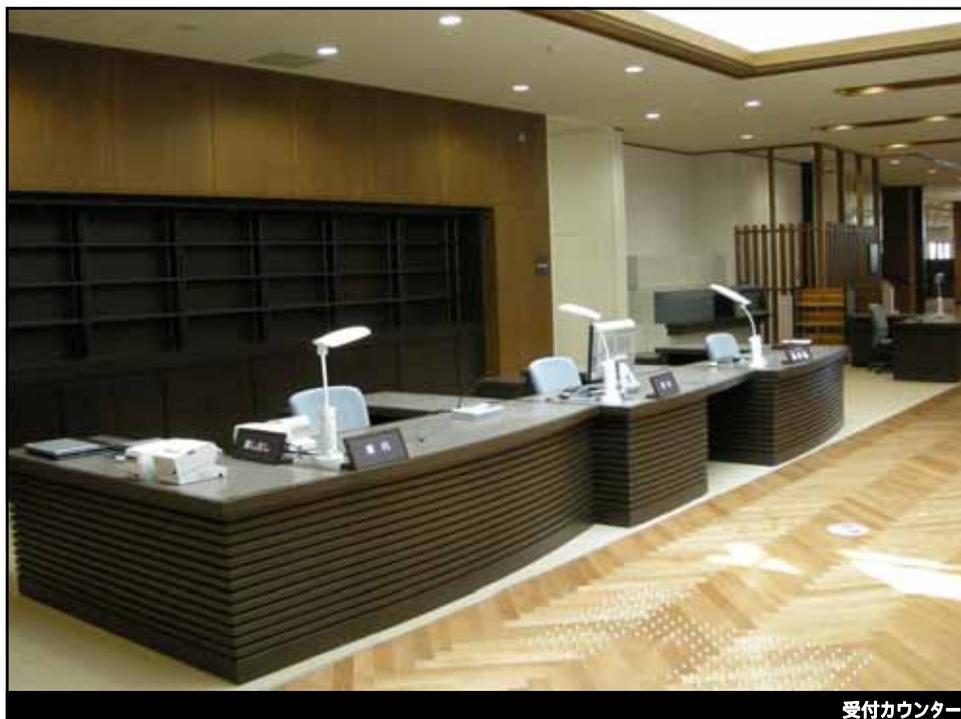
西条市立図書館



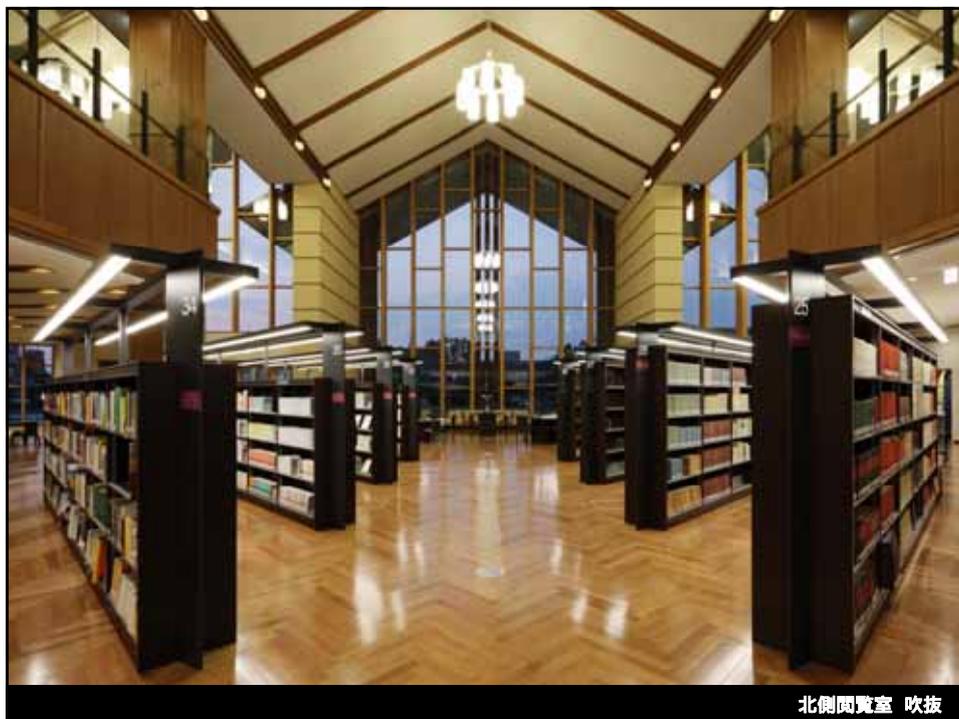
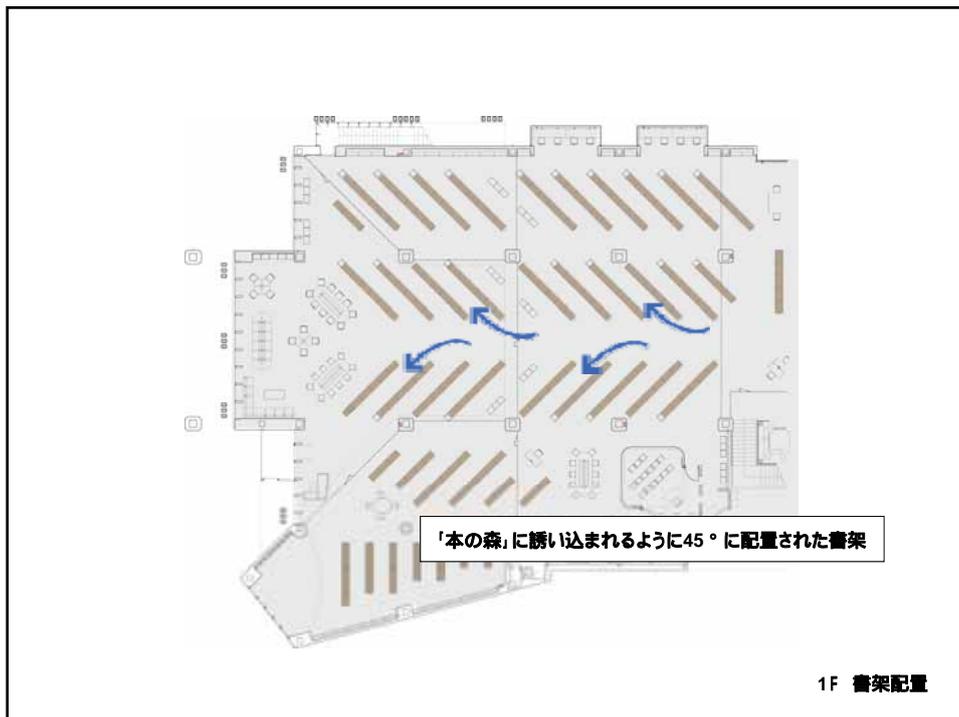


書架デザイン

- ・濃色のトーンを用いて、落ち着いた雰囲気を読しだす書架
- ・書架照明によって天井面をシンプルで明るく演出

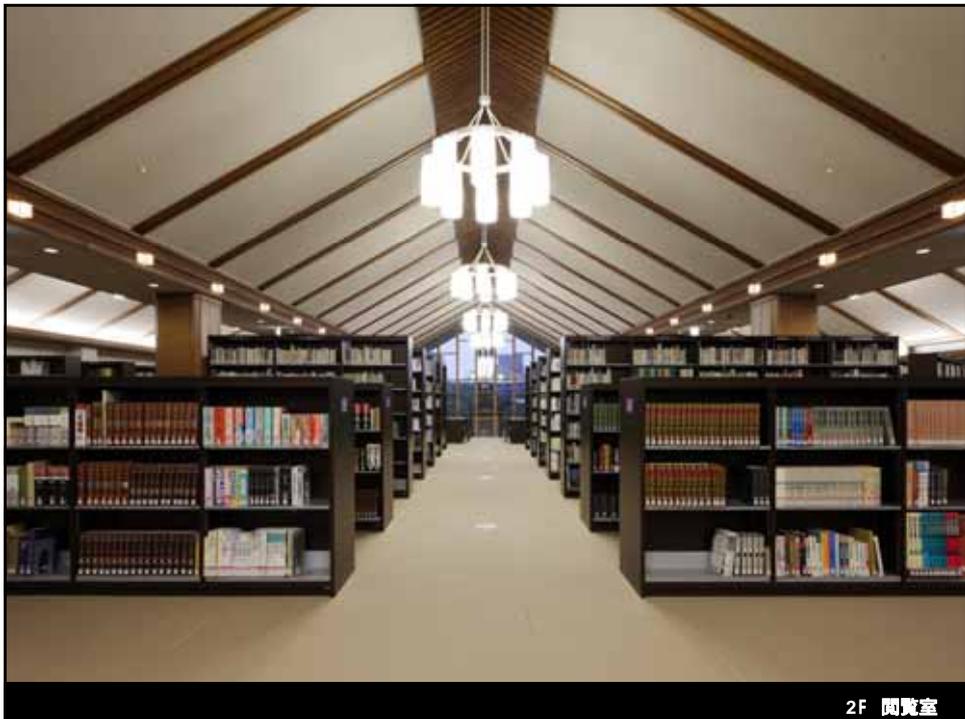


受付カウンター





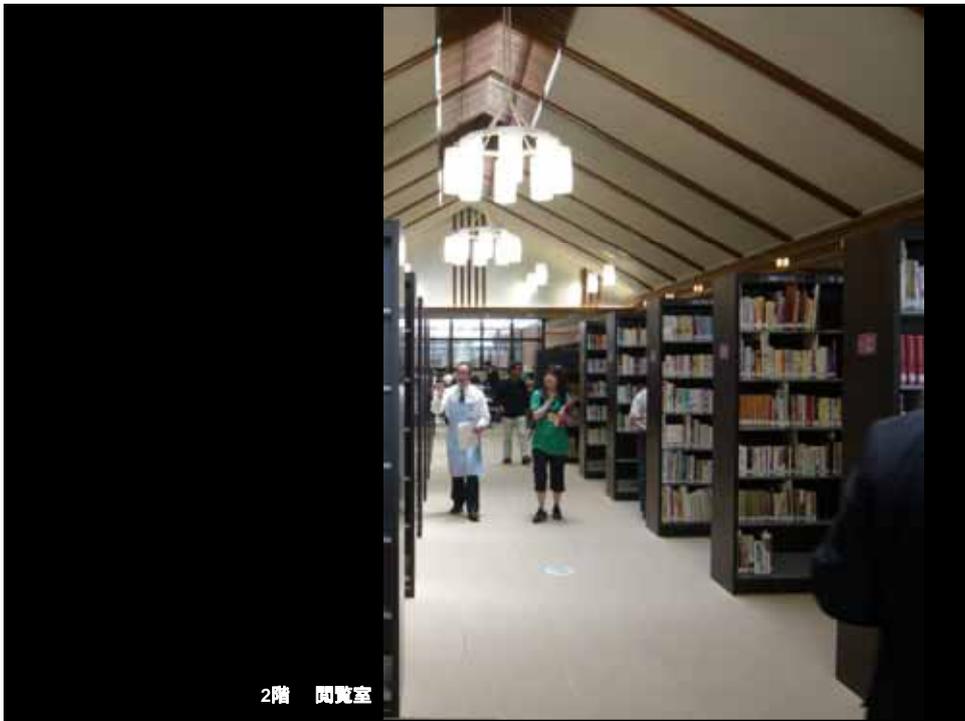
北側閲覧室吹抜より書架をのぞむ



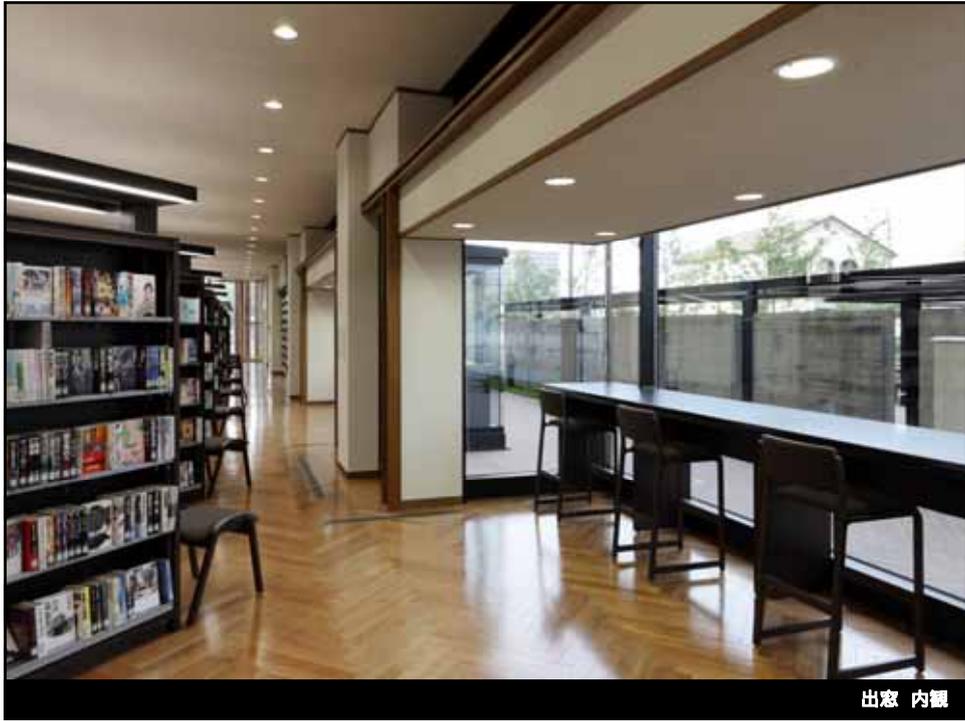
2F 閲覧室



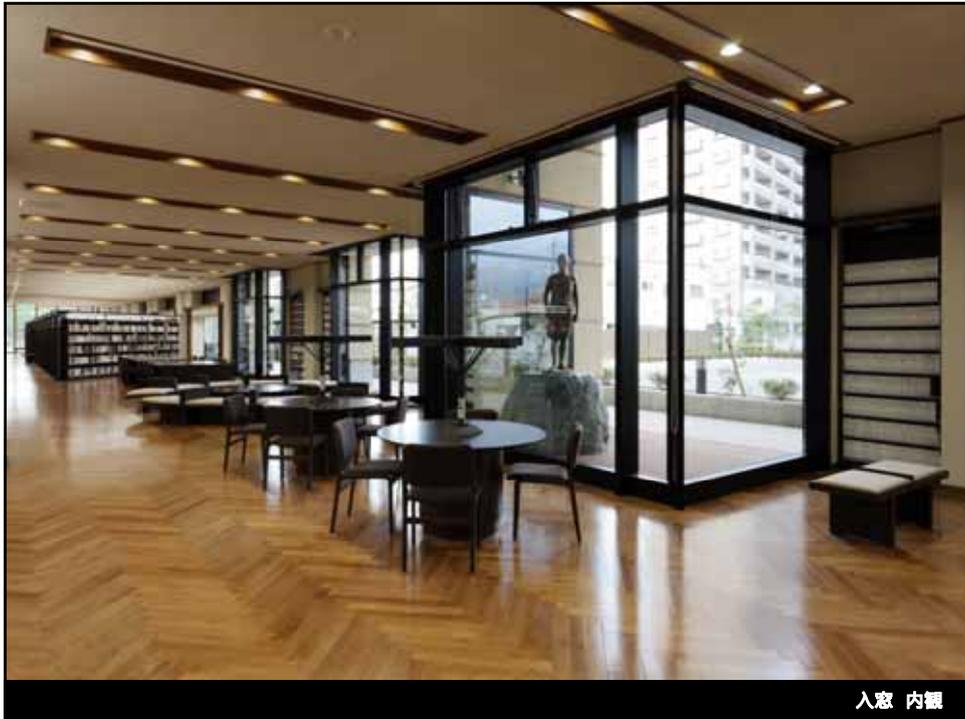
2階 閲覧室



2階 閲覧室



出窓 内観



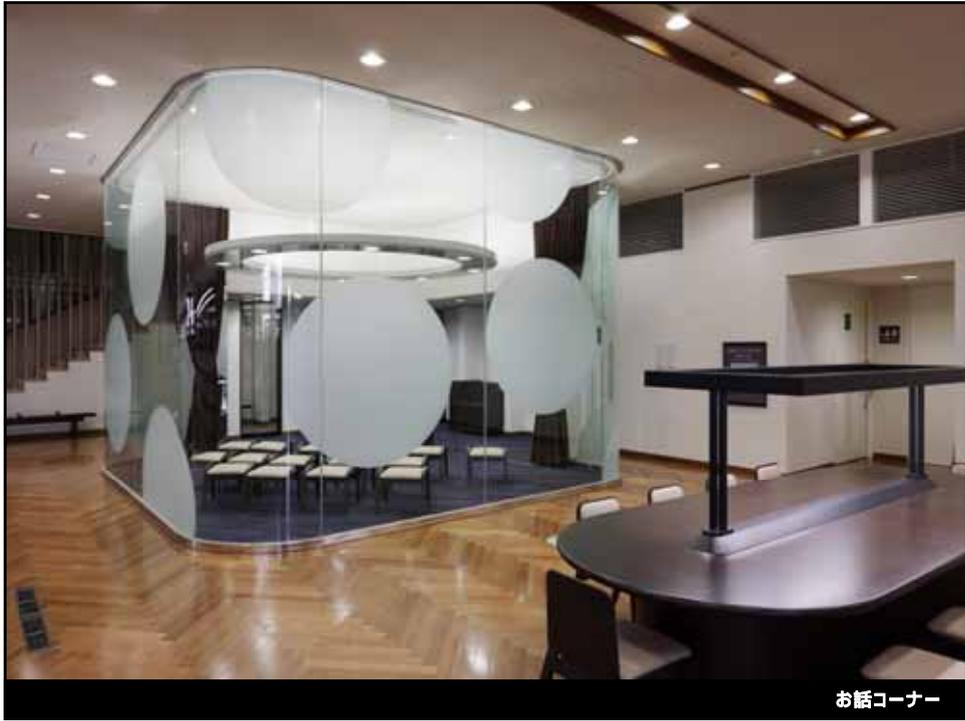
入窓 内観



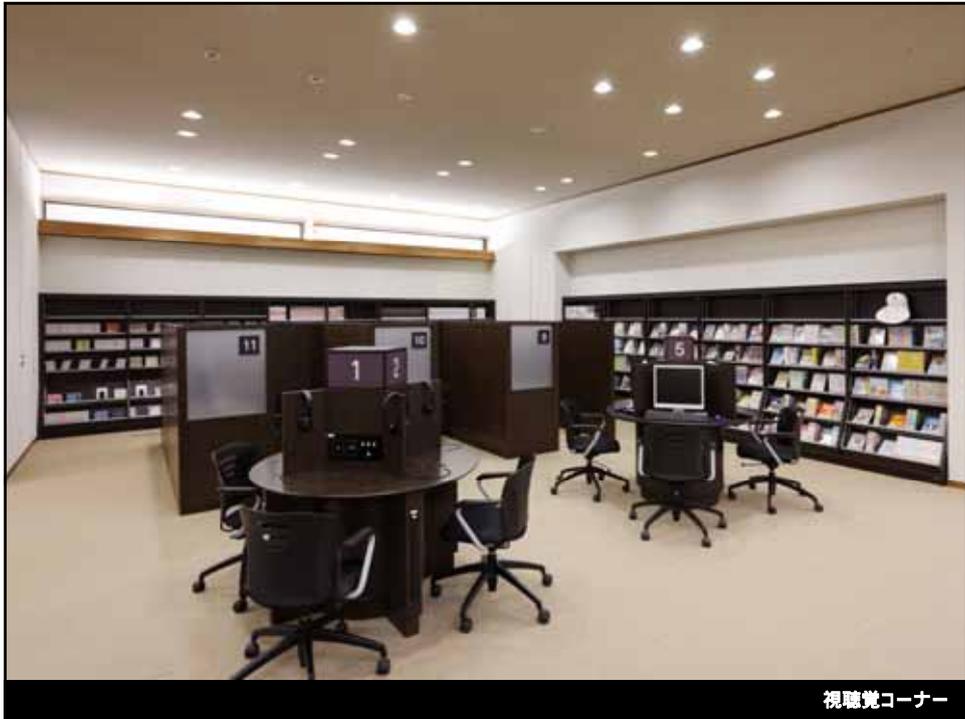
ブラウジング



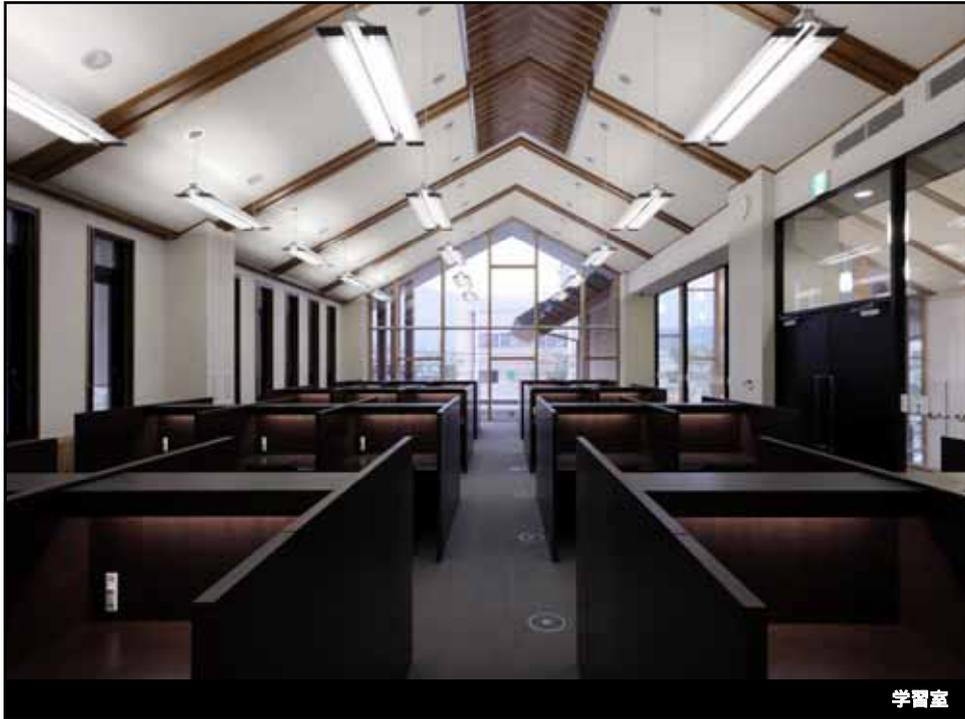
児童開架室



お話コーナー



視聴覚コーナー



学習室



ミニオフィス
5ブースにそれぞれ1台
ずつパソコンがあります。
インターネットが無料で
使用できます。



写真1 読書室は高さ12mの吹き抜け



読書室の階高から2階の吹き抜けを形成。総高約30m、内高20mの鋼鉄柱本で高さ12mの吹き抜け空間を支える

1階南側に設けた児童図書コーナー。2万4000冊の児童書を収蔵している。3階には天井照明がある



写真1 山並みに呼応する建屋観



山麓から見下ろした建屋観。山の輪線を建屋のデザインに取り入れた、高に拘束する制約場の付帯と一貫性として実現している。2012年の日本建築学会作品選奨を受賞した。

写真2 外構も市民主体で整備



木の木を植した歩道には、地元の高齢者が小学校の児童と一緒に植樹活動を行った。建設費削減を目的とした植樹プロジェクトとして、3年計画で段階的に整備する。(写真：中野)

写真3 館長自らカウンターで出迎える



館長は、入り口すぐ脇のコンシエールカウンター内にある。このスタイルも、市民から採られた意見を実現したものの。

写真4 独自企画で発信



館1本の経営を担うための講演会など、さまざまな企画を仕掛ける。書棚も、市民が自主的に仕掛けるシニアブックも取り入れた。(写真：中野)

武蔵野プレイス

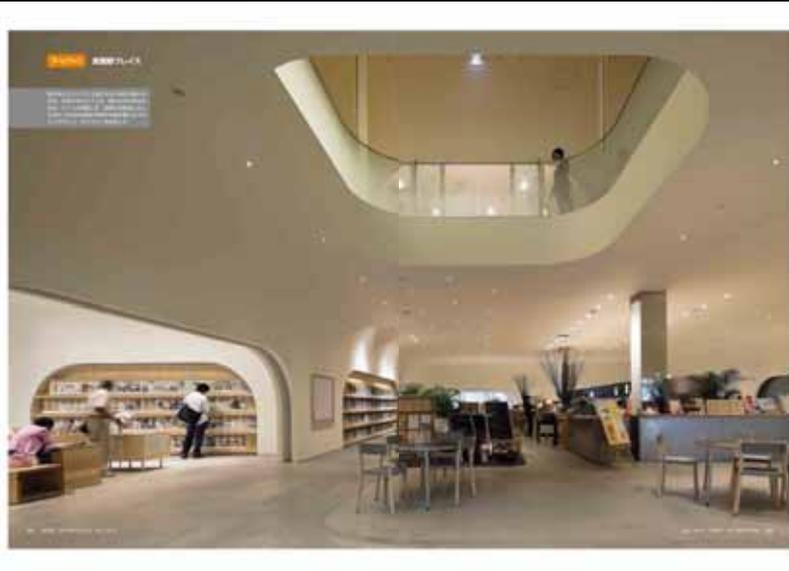




写真1 1階の中央にカフェを配置



1階のカフェは、この施設が各種施設を融合させたコミュニケーションの場であることとを象徴する存在として、施設の中心部に配置した。裏面にある新書・雑誌資料棟（右上の写真）と一体的にデザインした。「交流を生む場」という趣の理念に賛同し、カフェでイベントなども実施できる民間事業者をプロポーザルで選定し、委託した（前田健典）

写真2 青少年が気軽に集える場をつくる



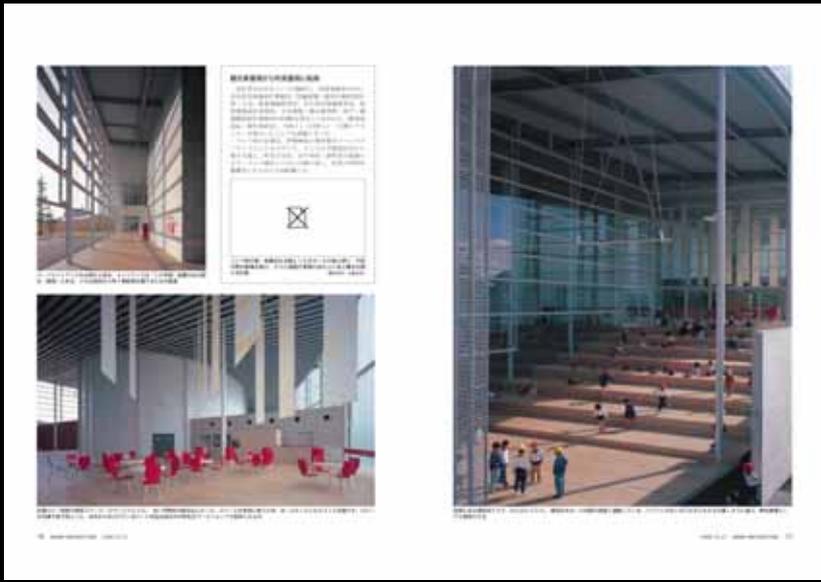
地下2階に設け可能な青少年のスペース「スタジオラウンジ」を設けた。平日の夕方は読書やゲーム、勉強をする中高生でにぎわう。同じフロアには「アート&ティーンズライブラリー」（写真集）がある

写真3 異なる世代を種やかにつなぐ



青少年のフロアとなる地下2階には芸術系や青少年向けの図書をもそろえた。スタジオラウンジと種やかにつなげて、読書への興味を促す。6せん階階の上は一輪向け図書をもそろえた地下1階のメインライブラリー

大社文化プレイス





せんだいメディアテーク





4階から5階のライブラリー（山形市立図書館）を見下ろす。4階のフロアがあるのは北側の一部だけで、東側は2・3階が伸びている。読書全体の運営は自治体と・まち・交流財団だが、4階のライブラリーは市立図書館として手が運営している



4階の「読書アラウンド」と呼ぶインターネットが利用できるパソコンコーナー。奥に見えるカーテンの向こう側は事務スペース



ライブラリーの柱まわりにはベンチを設置している



4階のライブラリー。Book&meでは読書に合わせた企画イベントも開催されていて読書イベントもしている。Book&meはフリーの空間で、1日貸し出すこともできる



読書空間のフロア。多くはアイディアが詰まっています。しかし、読書空間としての機能は、ライブラリーが



4階のエリアだけ、各種のニーズを盛り込んで読むことができる